

大塚グループのCSR(企業の社会的責任)

—サステナブルな社会の実現に向けて—

大塚グループは、CSRを事業と一体化したものと認識し、
企業理念のもと、積極的にCSRを推進しています。

企業理念

Otsuka-people creating new products
for better health worldwide

世界の人々の健康に貢献する革新的な製品を創造する

目指す姿

To become an indispensable contributor
to people's health worldwide

世界の人々の健康に貢献する、なくてはならない企業

CSRミッション

大塚グループは、CSRを事業と一体化したものと認識し、企業理念のもと、自らの持続的な成長と、健康でサステナブルな社会の実現を目指します。そのため、最適なガバナンス体制を土台として、社会と地球の健康に貢献する各活動目標の達成に取り組めます。

サステナブルな社会の実現に貢献



大塚の事業活動=社会課題の解決=CSR

Otsuka-people creating new products for better health worldwide

社会の健康【社会】
健康 人材 品質

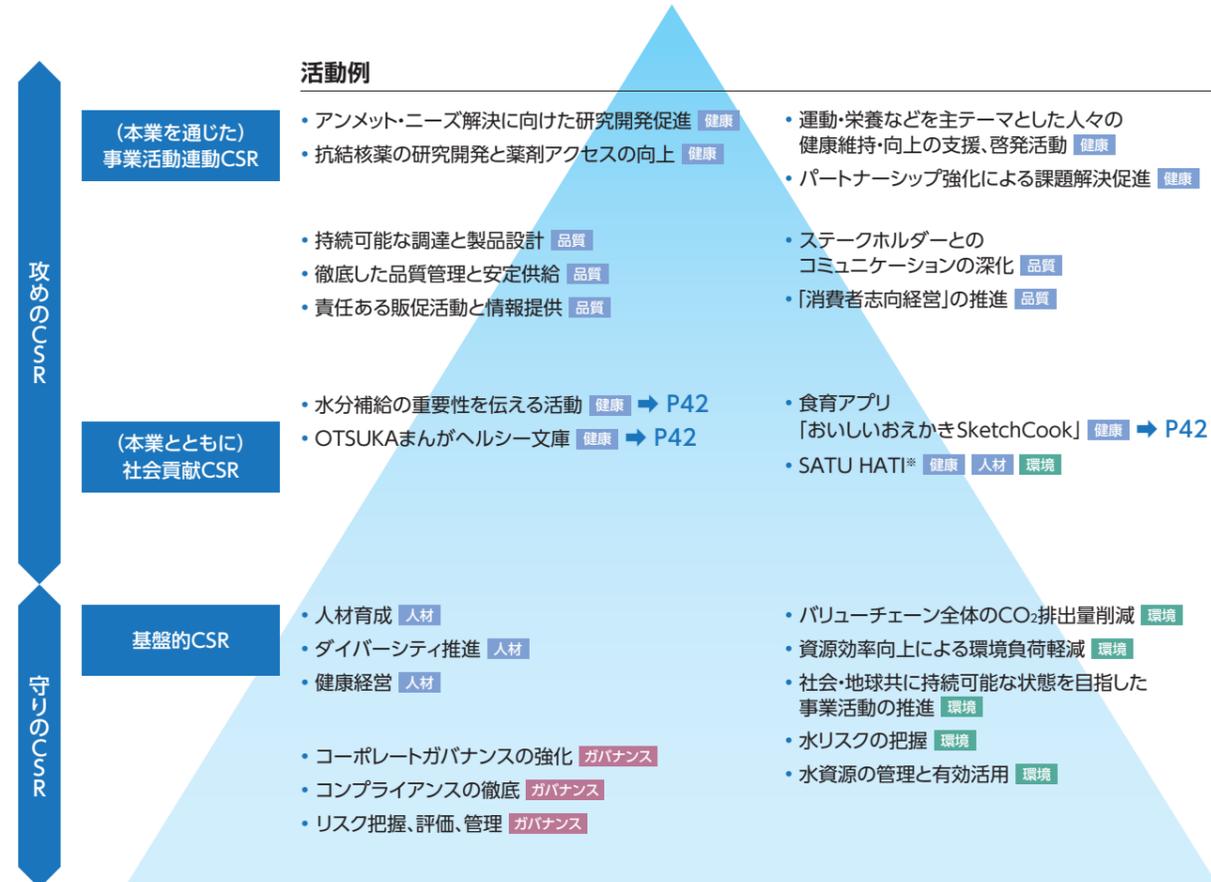
地球の健康【環境】
気候変動 資源共生 水資源

【ガバナンス】

コーポレートガバナンス コンプライアンス リスクマネジメント

大塚グループにおけるCSR(企業の社会的責任)の考え方

サステナブルな社会の実現に貢献



※ ポカリスエットの製造販売を行うP.T.アメルタインダ大塚では、インドネシアへ積極的に地域貢献したいとの考えから、「SATU HATI Cerdaskan Bangsa 心をつなぐすべての子どもに教育を」「SATU HATI Peduli Lingkungan 心をつなぐすべての環境に配慮を」「SATU HATI Sehatkan Bangsa 心をつなぐすべての国民の健康を」の3つの柱のもと社会貢献活動を実施

大塚グループでは、CSRは事業と一体化したものであるとの認識のもと、事業を通じて社会課題の解決を行うことで、持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。そのため、「事業活動連動CSR」を中心に、自らの持続的成長と、健康でサステナブルな社会の実現、すなわち経済価値とESGの側面なども踏まえた社会価値の創出を追求しています。

また、寄付などの社会貢献活動を含む「社会貢献CSR」、事業を支える基盤となるガバナンスやリスクマネジメントなどの「基盤的CSR」も企業の社会的責任として欠かすことができないと認識しています。CSRは企業が社会や環境と共存していくために果たすべき責任ある取り組みだと広く定義し、積極的に取り組みを推進しています。

国連グローバル・コンパクトの支持

大塚ホールディングスは2016年、「国連グローバル・コンパクト(UNGC※)」に署名しました。国連グローバル・コンパクトの10原則を支持するとともに、国連サミットで採択された「SDGs(持続可能な開発目標)」も視野に入れ、事業活動を通じて持続可能な社会の実現に貢献しています。

※United Nations Global Compact



マテリアリティ(重要項目)

マテリアリティ(重要項目)特定プロセス → P10

大塚グループは、2019年、社会、そして事業にとっての重要度に鑑み、マテリアリティを検討し、当社のマテリアリティ(重要項目)を「社会(健康、人材、品質)」「環境(気候変動、資源共生、水資源)」「ガバナンス」と特定しました。

マテリアリティ	社会課題	目標	活動	主に関連するSDGs	
社会 [社会の健康]	健康	<ul style="list-style-type: none"> 満たされていない医療・健康ニーズの存在 感染症の蔓延 栄養ニーズの存在 高齢化に伴う課題の増加 	<ul style="list-style-type: none"> アンメット・ニーズ解決への貢献 結核の撲滅 健康なくらしの実現のための仕組みづくり 健康寿命の延伸 	<ul style="list-style-type: none"> アンメット・ニーズ解決に向けた研究開発促進 抗結核薬の研究開発と薬剤アクセスの向上 運動・栄養等を主テーマとした人々の健康維持・向上の支援、啓発活動 パートナーシップ強化による課題解決促進 	
	人材	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンティーズム 多様化への未対応 	<ul style="list-style-type: none"> 創造意欲を喚起する企業風土の醸成 従業員エンゲージメントの強化 	<ul style="list-style-type: none"> 人材育成 ダイバーシティ推進 健康経営 	
	品質	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能性を損なう消費・生産 	<ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーの信頼の獲得 バリューチェーンすべての段階での持続可能性の追求 安心・安全のための品質保証体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な調達と製品設計 徹底した品質管理と安定供給 責任ある販促活動と情報提供 ステークホルダーとのコミュニケーションの深化 「消費者志向経営」の推進 	
環境 [地球の健康]	気候変動	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化 	<ul style="list-style-type: none"> 2030年目標：CO₂排出量を2017年比30%削減 	<ul style="list-style-type: none"> バリューチェーン全体のCO₂排出量削減 	
	資源共生	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷の増大 	<ul style="list-style-type: none"> 2030年目標：単純焼却・埋立を2019年比50%削減 2030年目標：PETボトルにおけるリサイクル原料、および植物由来原料の使用割合 50%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 資源効率向上による環境負荷軽減 社会・地球ともに持続可能な状態を目指した事業活動の推進 	
	水資源	<ul style="list-style-type: none"> 水リスクによる淡水の利用可能量減少 	<ul style="list-style-type: none"> 2030年目標：水の利用効率を2017年比15%改善 	<ul style="list-style-type: none"> 水リスクの把握 水資源の管理と有効活用 	
ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> 脆弱なガバナンス体制 社会変化によって生じるリスク 	<ul style="list-style-type: none"> 長期的な企業価値向上 	<ul style="list-style-type: none"> コーポレートガバナンスの強化 コンプライアンスの徹底 リスク把握、評価、管理 		